みんなで護ろう文化財 VOL.5

阿蘇神社（あそじんじゃ）

文化財保護委員
猪山 寶卯

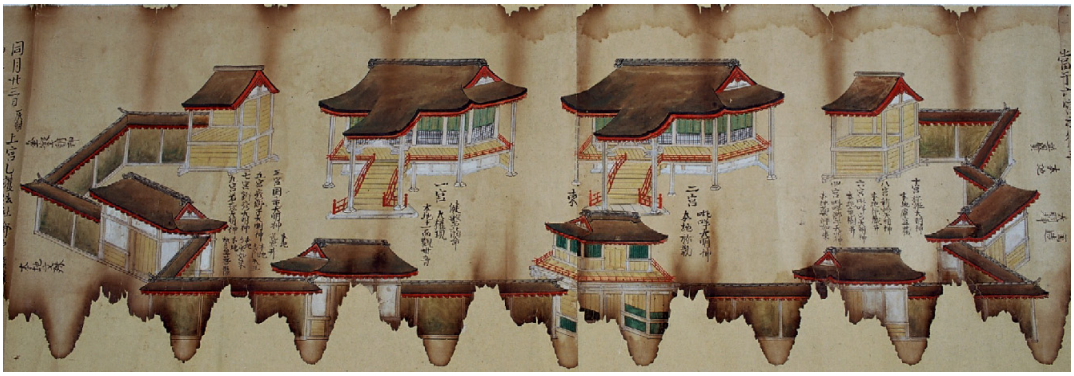
阿蘇神社は孝霊天皇九年の創建という社伝を持ち、古くは「肥後一の宮」と呼ばれ、豊前（大分）の宇佐神宮、筑前（福岡）の宗像大社とともに九州を代表する名社です。縁のある末社は県内に四百六十一社あり、県外でも六十二社を数え、創建以来祭祀を司ってきた宮司の阿蘇惟之氏は、第九十一代目にあたります。

阿蘇神社に集約される阿蘇信仰の原形は、神霊池（噴火口）への火山信仰（託宣神）と地域神（農業神）である阿蘇都彦・阿蘇都媛の信仰が合体し、祭神健磐龍命の出現によって完成したと考えられています。中岳火口と手野の国造神社を結ぶ直線（聖なるライン）の中間点に、社殿がそれに沿い横参道をもって平安の都に向かい、護国救民の神として鎮座した造りであると伝えられています。

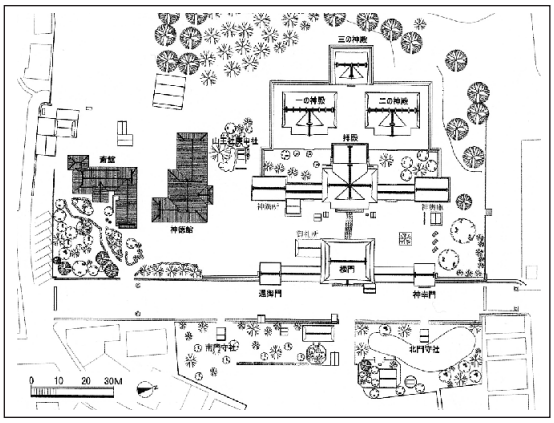
康保4年（967）に施行された古代の制度である『延喜式』神名帳には、肥後国から名神大社の健磐龍命神社・阿蘇比咩神社・国造神社の3社と玉名の疋野神社の4社があげられ、阿蘇3社は国家の尊崇を受けるにたる縁起と格式を認められていたことを示しています。

中世では、現在の阿蘇郡市は阿蘇氏の治める社領と考えられ、大宮司として勢力を広げていきました。神社も草部吉見神等の地域の神々と結びついて発展し、中央政権との関係を深めるため、最後の祭神金凝神（綏靖天皇）を入れた十二神体制が12世紀前半までに確立されました。戦国時代の動乱では、神社を支えていた大宮司の政治力が消滅し、近世の再生後も厳しい状況が続きました。しかし、肥後国を代表する神社としての地位は変わらず、大正3年（1914）に官幣大社となりました。

阿蘇神社に伝わる農耕祭事は、無形民俗文化財に指定されており、3つの神殿と諸門は市の有形文化財に指定されています。また、奉納された刀剣等の工芸品や今に伝わる古文書・出土品は、研究者から高い評価を受けています。



▲中世の阿蘇神社を描いた絵図（阿蘇神社蔵）



▲阿蘇神社境内図

▲阿蘇神社神殿